

沿岸部拠点（出発前）

- ①写真、映像、遺物、パネル等展示
 - ※人の想いも含めた記録
 - これまで
 - ・これまで宮城・仙台東部地域を襲った津波等災害の歴史
 - ・震災前の防災の取組みと今次災害での効果（仙台的街の成り立ち、戦災復興期、宮城県沖地震後の取組み等）
 - 東日本大震災
 - ・東日本大震災の被災の経験
 - ・震災の記憶
 - ・復興の過程
 - これから
 - ・復興に関わる願い
 - ・記憶の継承の取組み
 - 仙台市東部地域について
 - ・東部地域の全体像（俯瞰できるもの、例えば模型等を市民参加でつくる等）
 - ・被災前の地域史・文化、現在の暮らし
- ②回遊するための仕組み
 - 情報提供
 - ・現地の要素や避難経路の情報（マップ等）
 - ・事前説明（避難について注意喚起）
 - 手段提供
 - ・レンタサイクル設置など
 - 現地に足を運びやすい参加の仕組み
 - ・ツアーなど
- ③人の想いも含めた伝え方につながる活動を実施する拠点機能
 - 震災を伝えられる市民を育てる

- 震災や地域に対する人々の想いを知る
- 危機管理について説明を受け、津波被災地域だということを感じる
- 仙台市内の被災の全体像を知る
- 東部地域の全体像を把握する
- 情報を受け取る

東部地域（現地）

震災遺構等

被災集落の跡や、津波の傷跡が刻まれた誰もいない小学校がある場所に立ち、被害の甚大さを感じると共に、亡くなられた方を悼む。

- 【要素】
- ・被災地域のモニュメント
- ・荒浜小学校校舎と基礎群

みどり

一度失われた木々を植え、育て、手をかけ続けることにより、体験として人々の記憶刻まれ、復興の過程が受け継がれる。

- 【要素】
- ・再開した海岸公園
- ・再生される海岸防災林
- ・再生される居久根・田園風景

歴史的資産

何故そこに存在しているのか思い浮かべながら現地に立ち、祭りや市民活動等が行われる際は参加できるなど関わる機会がある。

- 【要素】
- ・復旧した貞山運河
- ・寺社仏閣等（波浪神社等）

津波防御・避難施設

広大な田園風景にそびえたつ津波避難施設や、かさ上げ道路など、異質なランドスケープに触れ、避難する際の行動を思い浮かべる。

- 【要素】
- ・かさ上げ道路
- ・海岸堤防・河川堤防
- ・津波避難施設
- ・再生される海岸防災林（再掲）

復興イメージ図（東部地域：将来）

東部地域仙台市震災復興計画を元に、仙台市の東部地域の復興のイメージを「将来」の時点で表したものである。
※本図は平成24年までの計画内容を元に将来のイメージを示したものであり、今後計画内容が変更になる場合があります。



干潟・生き物

津波で被災した環境に再び生物が戻っている様子やその変化を知り、また様々な動植物と共に生きていることを感じる。

- 【要素】
- ・干潟（蒲生干潟、井土浦）
- ・沼、水路、田んぼ、貞山運河（再掲）

食・農

震災から立ち上がった農地や新しい農業の形を知る。また市街地の食を支えている農家の暮らしや食文化を感じ、味覚でも楽しむ。

- 【要素】
- ・地域の食文化
- ・東部地域で収穫された作物
- ・農家レストラン、産直市
- ・6次産業化された農業

人

震災の記憶や復興に対する話を聞き思いを寄せ、また地域に暮らす人や東部地域に思い入れのある方に出会い、地域や人に愛着をもつ。

- 【要素】
- ・震災の記憶や復興に対する思いを伝える語り部
- ・地域に暮らす人
- ・東部地域の魅力に詳しい人

文化・暮らし

震災で失われてしまった町の記憶や、そこに込められた思い、人々の暮らしを知ること、震災がもたらした悲しさを感じ、亡くなられた方へ思いを寄せる。

- 【要素】
- ・被災した地域の文化・生活の様子

沿岸部拠点（到着後）

- ①写真、映像、遺物、パネル等展示
 - （出発前と同じ展示内容。ただし感じることは変化もある。）
- ②経験の振り返りをするための仕組み
 - ・東部地域をまわった感想や経験の記入
 - ・ツアー後、参加者同士でお茶を飲む時間を持つなど、感想を共有できる場づくり

- 経験後に改めて情報を見えることで、出発前と違う気づきを得、自らの経験を思い起こす
- 得た感想や経験を、振り返り記録する

わたしたちが、東部地域で経験をした人に対して、自分の住む地域に戻った後につなげてほしいと望むこと

- 東部地域での体験、得たことを他者に伝える
- 東部地域の人や地域と、つながり続ける
- それぞれの家庭、地域、組織の防災の取組みに活かす
- 自分の家族や地域を大切にする
- 再度現地を訪れる